元気になろう日本
夢を応援基金
LAWSON

夢を応援基金 ～東日本大震災奨学金制度～

2014年度 活動報告

LAWSON　CIVIC FORCE　CHARITY PLATFORM

制度概要

名称	「夢を応援基金」(東日本大震災奨学金制度)
奨学金	月額30,000円(給付、返還不要)
奨学生	約1,097名（2011年9月奨学金給付開始時の人数）
目的	本奨学金は、2011年3月11日に発生した東日本大震災(以下「本震災」という。)によって経済状況が急変、または悪化し、就学継続が困難な状況にある、日本国内の高等学校及び高等専門学校(1~3年)、並びに高等専修学校に在籍する生徒に対し、大学など上級学校卒業までの間、奨学金を給付することにより、経済的不安を緩和し、学習効果を高めることを目的として寄与するものです。
運営体制	創設者：株式会社ローソン 運営主体：公益社団法人Civic Force 基金事務局（奨学生等との窓口業務）：特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム *この事業は、Civic Forceの「中長期復興支援事業」の一環として運営されています。また、奨学金を含む運営のための資金は、ローソンによる店頭募金やマルチメディア情報端末「Loppi(ロッピー)」で受け付けられた募金、Pontaポイントでの募金のほか、Civic Forceオンライン寄付などから受け付けられた寄付により賄われています。
支援の内容	■ 月額3万円の奨学金給付(返還不要) ■ 教育プログラム（ボランティア活動、奨学生交流会など）の実施によるサポート ■ その他被災地の生徒や学校からの意見も取り入れ、現地のニーズに合わせた様々なサポートプログラムを実施予定
対象者 *募集当時	高校進学を控えた中学3年生（予約奨学生）、高等学校、高等専門学校（1～3年）等に在籍していた生徒
応募資格 *募集当時	下記(■)の条件をすべて満たし、かつ、AまたはBのいずれかに該当すること ■ 本震災時に家計を支える方が岩手県・宮城県・福島県に居住しており、同地域の学校に通学していた生徒 ■ 学校の推薦を受けることができる品行方正な生徒 ■ 夢をかなえるために、意欲と根性があり、東北の復興への貢献を希望している生徒 ＝＝ A.本震災により家計を支える方が死亡・行方不明・負傷病気・失業等の被害を受け、経済的事由により就学が困難な状況が見込まれる生徒 B.本震災により住居していた住宅が半壊・半焼または床上浸水以上程度の被害を受け、または計画的避難区域になっているなど、経済的事由により就学が困難な状況が見込まれる生徒
支給期間	2011年9月より高校・高等専修学校卒業または専門学校・大学などの上級学校(大学院除く)卒業までの最大7年間 ※2011年度は、2011年9月から2012年3月までの7カ月間。以降、毎年進学時に更新手続き有り
注意事項	受給者は、奨学金の返還義務を負いません。また、奨学金の主たる提供者(株式会社ローソン等)への入社等その他の付帯義務を負うものではありません。 **※2015年3月現在、奨学生は募集しておりません。**

「夢を応援基金」運営協力企業

教育新聞 The Education Newspaper

株式会社教育新聞社
運営のための様々なご協力をいただいております

For Bridge Smile

認定特定非営利団体ブリッジフォースマイル
運営のための様々なご協力をいただいております

77 BANK 七十七銀行

株式会社七十七銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

すべてを地域のために 東邦銀行

株式会社東邦銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

岩手銀行

株式会社岩手銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

第4期活動概要

2011年3月11日の東日本大震災発生から半年後の2011年10月、株式会社ローソン様（以下、ローソン）からのお申し出により立ち上がった「夢を応援基金」より、第1回目の奨学金が奨学生1,097名に支給されました。「夢を応援基金」では、2,400通の応募の中から選ばれた1,097名の被災学生に対し、高校入学から大学を卒業するまでの最長7年間、奨学金を支給します。

第1回目の奨学金支給開始から約3年半ーーー2014年4月、3回目となる更新手続きでは、229名の子どもたちが高校や上級学校（大学、短期大学、専門学校等）を無事卒業し、社会に羽ばたいていきました。2014年度は上級学校に進学した158名を含め、669名の奨学生に奨学金を支給しました。1年間の奨学金支給を経て、2015年3月、「夢を応援基金」は皆様のご支援のお陰で、無事、第4期を終了することができました。

基金の創設者であるローソン、そしてローソングループの店頭募金にてご協力をくださった多くの皆様、オンライン寄付によりご寄付をいただいた個人の皆様に、活動のご報告と併せまして、心より御礼を申し上げます。

夢を応援基金の主な活動		
2015年	4月	2015年度更新手続きを実施
	2月	ローソン店頭マルチメディア情報端末「Loppi(ロッピー)」を通じた募金の受付を開始
2014年	8月	宮城県で奨学生交流会と夏の体験プログラムを実施
	7月	岩手県で奨学生交流会を実施
	4月	2014年度更新手続きを実施
2013年	11月	仙台で奨学生交流会を実施
	8月	東京で奨学生交流会を、宮城県で夏の体験プログラムを実施
	4月	2013年度奨学生の更新手続を実施
	3月	■「夢を応援基金」の運営主体が公益社団法人Civic Force（シビックフォース）に移行 ■全国のローソンで、募金告知のため『1,097のありがとう。』（小冊子）を配布 ■全国のローソングループ各店で店頭募金実施（～5月末）
	1月	奨学生のうち、高校2年生を対象に、自立支援ハンドブックを配布
2012年	5月	予約奨学生（申込時に中学3年生で、新高校1年生）への奨学金支給開始
	4月	2012年度奨学生の更新手続を実施
	3月	■全国のローソン各店で店頭募金を実施（～5月末） ■奨学生のうち、高校2年生及び高校3年生を対象に、自立支援ハンドブックを配布 ■基金奨学生募集時に、申請書を提出した学生が在籍する高等学校及び高等専門学校に対し、自立支援ハンドブックを寄贈
	2月	ローソン主催による、被災3県の高校生を応援する夢を応援基金「スペシャル講演＆ライブ2012」を仙台市で開催。約700名が参加
2011年	12月	ローソングループ社内募金の受付開始（給与天引き制度）
	11月	旺文社様からのご寄付と寄贈により、奨学生募集時に申請書を提出した学生が在籍する高等学校、高等専門学校、中学校全358校に対し、『それでもいまは、真っ白な帆を上げよう』を2冊ずつ寄贈（合計716冊）
	10月	■第1回目の奨学金を支給 ■奨学生とならなかった生徒には、支援金3万円とローソンプリペイドカード6千円分を進呈
	9月	1,097名の奨学生が決定（応募総数2,400名）
	7月	被災地（岩手県、宮城県、福島県）の高等学校、高等専門学校、中学校等に奨学生の募集を告知し、奨学生を募集
	5月	■全国のローソン各店で店頭募金を実施（～8月） ■ローソン各店舗にて、寄付つき商品の販売を開始（その後随時実施）
	4月	「夢を応援基金」創設
	3月	東日本大震災発生

卒業生からのメッセージ

2015年春、多くの奨学生が、社会へと飛び立っていきました

「応援で頑張ることできた」―宮城県出身
震災当時高校生だった私は、震災の経験から看護師になる決意を固めました。看護学校では苦しいことのほうが多く、学校を辞めたいと思ったときもありましたが、奨学金を支えてくれている皆様の応援のおかげで今日まで頑張ることができました。これからは医療従事者として人々の役に立ちたいと思います。

「感謝の気持ちでいっぱい」―福島県出身
「ありがとう」の言葉だけでは足りないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。私は、3月で高校を卒業し社会人となります。好きだった野球部に入部し、避難先でも充実した生活が送れたことは私にとって一生忘れがたい思い出です。社会人となり、避難先から離れることになりますが、第二の故郷として忘れることはないと思っています。これからは恩返しできるよう立派な社会人になりたいです。

「目標に向かって頑張ることできた」―岩手県出身
震災により家族や友人を失い、両親の職場も被災するなど経済的理由から進路について悩んでいました。奨学金を頂くことができ、本当に安心したのを覚えています。高校卒業後は多くの人を助けたいという気持ちから看護学校へ進学することを決めました。目標に向かって3年間頑張ることができました。これからは地元岩手県で看護師として貢献していきたいです。

「社会に貢献できる人に」―宮城県出身
震災を期に世の中が一変しました。私の家は宮城県気仙沼市大島にあり、牡蠣とホタテの養殖を営んでいました。震災後、大島での生活や仕事を諦めた家族とともに、気仙沼市内で生活をしています。この春、高校を卒業し社会人になります。感謝を忘れず社会人としての自覚を持ち、社会に貢献できる人になりたいです。

「困っている人を支える側に」―宮城県出身
柔道整復師の方が避難所でお年寄りなどの身体・心のケアを行い、たくさんの人を笑顔にしていたのを覚えています。その時から柔道整復師になりたいと思うようになりました。しかし、家族に迷惑をかけられないと、高校卒業後は就職を考えていましたが、「夢を応援基金」を知り、夢に向かって頑張ることができています。これからは困っている人を支える側になれるよう一層努力していきたいです。

「夢を諦めずに叶えることができた」―岩手県出身
私は「夢を応援基金」で支援を受けさせていただくことにより、短期大学へ進学し学ぶことが出来ました。中学生のころからの夢であった保育士として4月から働けることがとても嬉しいです。「夢を応援基金」のおかげで私は夢を諦めずに叶えることが出来ました。

「美容室に就職が決定」―宮城県出身
高校1年生の時に自宅が全壊し、両親が経営していたヘアーサロン店も大規模半壊の被害を受けました。小さいころから両親の仕事を間近で見ていた影響もあり、美容師になりたいと強く思ってきました。奨学金は美容学校の学費として大切に使わせていただいています。昨秋には、第一希望の美容室に就職が決まりました。

「避難者の支えに」―福島出身
原発事故で故郷を離れ、知らない街へ避難しました。私は仮設住宅から、中学、高校に通い、「夢を応援基金」のおかげで部活にも励むことができ、充実した学生生活を送ることができました。今春から警察官として働くことになり、これからは少しでも避難者のみなさんの支え、復興の力となれるよう努力したいと思います。

奨学生の「今」

2014年にお会いした奨学生の皆さんに、震災後からこれまでの経験や将来の夢などを伺いました。震災を乗り越え、自身の夢を叶えるために日々努力する奨学生の「今」が伝わってきます。

山﨑 優花さん 高校3年

「理学療法士として働きたい」

震災から3年以上が経ちますが、私の家族は未だに仮設住宅に住んでいます。高台移転もなかなか進んでいないので復興はまだ感じられないのが正直な気持ちです。私が避難所で生活していた時、理学療法士の方がボランティアとして避難所を訪れ、お年寄りのマッサージを行っていました。マッサージを受けている人だけでなく、その周りの人も笑顔にしている姿を見て、私は理学療法士になりたいという夢を抱きました。将来は地元に戻って地元の人たちのために貢献できる理学療法士として働きたいと思います。

「仕事を通して地元に貢献できる人に」

私は南三陸町で生まれ育ちました。東日本大震災の津波により祖父、祖母は行方不明となり、今も見つかっていません。震災後は、今まで当たり前だと思っていた電気も使えなくなりました。その時初めて電気の大切さを知り、工業高校に進学し、電気について学んでいます。第2種電気工事士の資格も取得し、現在就職活動中です。将来は電子部品を作る会社に就職を希望しています。すべての電気機器に欠かせない部品を製造したいと思っています。仕事を通して地元に貢献できるよう頑張りたいです。

佐藤 晴也さん　高校3年

藤本 朱子（あやこ）さん 大学3年

「大学に進学できて本当に良かった」

私はアスレチックトレーナーになりたくて、スポーツ系の大学に進学を考えていました。しかし、修学旅行で訪れたロンドンで色々な経験をし、もっと世界のことを知りたいと思い国際文化学科に進学しました。大学では友人と先生に恵まれ充実した生活を送っています。大学に進学できて本当に良かったと思っています。私は人とかかわることが好きなので、接客業に就きたいと考えています。また英語もしっかり勉強し、海外で働くことも視野に入れています。震災からこれまで、多くの方に支えていただき学生生活を送ることができています。これからも応援お願いします。

「目の不自由な人を助けたい」

震災後、勉強ができない状態が続きました。中学3年で仙台の学校に転校し、クラスにもなじめず保健室登校を繰り返していました。高校は第一志望の高校に入学することができ、震災後、別々に暮らしていた家族全員そろって暮らせるようになりました。私の将来の夢は視能訓練士になることです。私の祖母は目が不自由で、私は小さいころから祖母が不自由な生活を送っているのを目にしていました。将来は祖母のような目の不自由な人を助けたいと思っています。国家資格を取れるよう頑張りたいです。

江田 和紗さん 高校3年

※学年は2014年8月時点のものです。

サポートプログラム実施報告-1

2014年8月、「夏休み学生向け特別企画～東北の『今』を見つめる体験型研修」を実施

「夢を応援プロジェクト」のサポートプログラムとして、2014年8月に東北で活動する地元NPOと協力して、「夏休み学生向け特別企画～東北の『今』を見つめる体験型研修」を実施しました。8月17～19日には宮城県登米市において「くりこま高原自然学校プログラム」、 8月20～22日には宮城県気仙沼市において「森は海の恋人プログラム」を実施しました。

「くりこま高原自然学校プログラム」

くりこま高原自然学校が運営する「手のひらに太陽の家」は東日本大震災で被災した子どもたちの支援と被災地の活性化のために2012年7月にオープン。放射線量の高い地域での生活を強いられている子どもたち、その家族を支援しています。福島の子どもたちとのふれあい、保護者や施設スタッフとの交流を通じ、「被災地の今」を考えていただくことを目的に、くりこま高原自然学校と協働で企画しました。プログラムには福島県、岩手県出身の大学生2名が参加し、福島県、宮城県から訪れた4家族の滞在をサポートしました。

子どもたちとその保護者、施設のスタッフと2泊3日の共同生活で交流を深めたほか、くりこま高原自然学校の佐々木豊志代表から、太陽光発電や太陽熱給湯を取り入れ、循環型社会の形成に向けた新しい住宅モデルである「手のひらに太陽の家」について学ぶなど、被災地の抱える課題などに理解を深めていました。

「森は海の恋人プログラム」

「自然の“環”から、人の“和”を育てよう！」をキャッチフレーズに、環境教育・森づくり・自然環境保全の分野で活動するNPO法人「森は海の恋人」。プログラムでは、火おこし体験のほか、ボートで海へ行き、地引網での海底の動植物採取、ハモやアナゴの夜釣り、牡蠣の養殖見学などを実施しました。

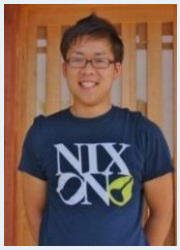
森は海の恋人副理事長の畠山信（まこと）さんは、湾に浮かぶイカダに吊るされたロープを引き揚げながら、「このホタテの殻に付着しているのは牡蠣。牡蠣は、海水をいっぱい吸って成長するので、海中にいるプランクトンも栄養分になる」と、海で生きる生物や地球上の豊かな生態系について説明。参加した奨学生は、3日間自然にどっぷりつかりながら、海と森とのつながりについて知る濃密な時間を過ごしました。

子どもたちと川遊び

手のひらに太陽の家で交流

豊かな生態系について理解を深めた

～参加者からのメッセージ～



「子どもたち全員が『冒険』を経験」―「くりこま高原自然学校プログラム」参加
菅原 赳大（たけひろ）さん（大学1年、岩手県大船渡市出身）
子どもたちの新しいことに対する貪欲さを学びました。研修初日に佐々木代表から「冒険教育」について教わりました。2日目の川遊びで、高いところからの飛び込みがまさに冒険教育に当てはまっていたと思います。男の子はすぐに飛び込みましたが、女の子たちは少しためらいながらも最後は全員飛び込むことができました。そこにいた子供たち全員が小さな「冒険」をしました。抵抗はしながらも最後は飛び込む子どもたちの姿から、新しいことに対する強い興味と、貪欲な姿勢を学びました。

「視野が大きく広がりました」―「森は海の恋人プログラム」参加
今野 涼太さん（大学2年、福島県浪江町出身）
学び多き体験ができました。火おこしのときは、鉈（なた）と薪だけ渡され少しとまどいましたが、どうやって火を起こすか考え、答えを導き出す過程で、自らの力で問題を解決していく必要性を実感しました。また、今回のプログラムでは、海の生態系から森と海の密接な関係、環境学、産業ビジネスや科学まで幅広い知識に触れることができ、視野が大きく広がりました。これからも機会があれば積極的に参加したいです。

※学年は2014年8月時点のものです。

サポートプログラム実施報告-2

2014年7、8月、東北3地区で奨学生交流会を開催

「夢」、「悩み」語り合う

2014年7月と8月、岩手県宮古市、宮城県石巻市、気仙沼市の3地区で「夢を応援企画～交流会」を開催しました。岩手県宮古市での交流会には高校生3名、大学生2名、石巻市では市内外から高校3年生5名、気仙沼市の交流会には進学先から帰省中の大学生2名が参加しました。初めて顔を合わせる奨学生同士でしたが、同郷ということもありすぐに打ち解け、地元の話題や進路の悩み、将来の夢などについて語り合っていました。

アドバイスを送る人事担当者＝宮城県石巻市（2014年8月8日）

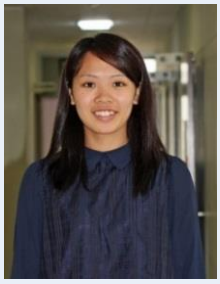
「就職活動に意欲が湧いた」

交流会では、「夢を応援基金」の創設者である株式会社ローソンの人事担当者が、「ローソンを通して“はたらく”を考える」をテーマに、企業分析、自己分析の方法や、面接官の視点で就職活動に対するアドバイスを送りました。

担当者は「弱みは気にしなくていい。強み、これまでやってきたことをしっかりと伝えられるようにすることが大切。たくさん考え、納得のいく就職を実現してほしい」と奨学生を激励していました。

奨学生からは「企業の理念などについて知ることができ、とても勉強になった」「企業の考え方を知ることができ、就職活動に意欲が湧いた」「企業や私自身のことについて改めて向き合うことができました」などと感想を話していました。

「悩みを共有できた」－宮古市交流会に参加
藤原 果奈さん　大学1年



私は今、仙台の大学に通っています。夢は小学校の先生で、大学で夢を叶えるため勉強を頑張っています。今回の交流会では、震災を経験した人たちと悩みを共有でき、素の自分でいることができました。とても貴重な機会を頂き感謝しています。また私が大学に進学することができたのも、全国の皆さんの支えのおかげです。夢を叶えるため、寄付して頂いた方に感謝の気持ちを持ちこれからも頑張りたいです。将来は宮古に戻り、復興に貢献できるような大人になりたいです。

「自分と向き合うことできた」―気仙沼市交流会に参加
佐藤 夏葵さん　短期大学2年
震災の時、大船渡の自宅から、街が津波に飲まれ、子どもたちが泣き叫ぶ姿を目にしました。震災から3年5カ月が経ち、私は今、秋田県の大学で栄養学を学んでいます。被災地の出身ということで不安でしたが、大学の友人たちには「大変だったね」と温かい言葉をかけていただきました。今回人事の方から就職活動についていろいろなことを教えていただき、企業や私自身のことについて改めて向き合うことができました。現在は栄養士の資格取得に向け勉強を頑張っています。将来は地元に帰って被災地の方々の健康を考えた栄養バランスのいい食事を提供できるような人になりたいです。

※学年は2014年8月時点のものです。

奨学生の2014年度の振り返り-1

奨学生に、2014年度を振り返って「私の宝物」、「今、伝えたいこと」などをテーマに課題作文を書いてもらいました。ここに、その一部を紹介します。

【私の宝物】

「父を失った時、支えてくれた友達」―大学2年/宮城県出身・在住

『宝物』と言われて１番に頭に浮かんでくるものは家族や友達です。4年前の東日本大震災で私は父を失いました。現実が受け止められなくて毎日泣いていました。友達がいなければ、あの辛さを乗り越えられていないと思います。地元を離れ、家族や友達には頻繁には会えないですが、いつも支えてくれていることへの感謝の気持ちを忘れずに大切にしていきたいと思います。

「いつも私の背中を押してくれた母」―大学4年/宮城県出身

私の宝物は母です。物心がつく前から父親のいなかった私には、母が「母親」であるのと同時に「父親」でもありました。東日本大震災で環境が大きく変わったにも関わらず、母は「自分がやりたいことは最後までやりなさい」と言って東京の大学への進学をためらっていた私の背中を押してくれました。卒業したら、幼い頃あまり一緒に過ごせなかった時間を埋められるくらい、これからの時間を共に生きていきたいです。

【今、私が伝えたいこと】

「地域の復興に関わりたい」―大学2年/岩手県出身

私は農業普及員という夢の実現に向かって一歩一歩進んでいます。私の地元である陸前高田市は農業に従事する若者が少なく、復興に向けた具体的なアイデアを提示できていません。それを改善するために、自分が大学で学んだことを少しでも生かす努力をしたいです。小さなアイデアでも復興という大きな希望の花を咲かせることに関わり、少しでも恩返しすることが出来るよう努力したいと思います。

「私の故郷は復興などしていない」―大学1年/福島県出身

原発事故による避難地域である私の故郷浪江町は、震災当時から何ひとつ変わっていません。原発事故は、私達から本当に多くのものを奪いました。決して、お金で代償出来るようなものではありません。しかし、賠償金が支払われている被災者のことを、あまり良く言わない人がいると聞きます。私達は好きで原発事故被災者になったわけではないのです。福島が本当に復興するまで、どうか温かく見守ってください。

「芸術の力を信じて」―大学1年/福島県出身

今日まで希望を失わずに夢に向かって歩み続けることができました。高校3年の夏、進路を大幅に変え留学を決意。韓国での2年間の留学生活で大きく成長できたと確信しています。また今年から韓国の芸術大学に再入学し、新たなスタートを切ることになりました。震災後、私の心を癒し、支えてくれたのは芸術の力でした。芸術の力を通じて世界各国の人達が互いに理解し交流できる国際交流の場を設けたいというのが私の夢です。

【来年度チャレンジしたいこと】

「立ち入りが禁止されている地元のために」―高等専門学校4年/福島県出身・在住

私は千葉大学の都市環境システム工学科に進学したいと考えています。そこでは都市デザイン演習などの活動があり、デザイン創造研究サークルで得る経験は必ず必要になります。私の将来の夢はいまだ立ち入りが制限、禁止されている地元の復興に携わる職業に就くことです。夢実現のために勉学に励み、サークル活動、今年から始めるインターンシップなどで見聞を広めたいと思います。

「再開した父の理容店のために」―専修学校1年/宮城県出身・在住

東日本大震災によって、祖父と自宅、父の理容店舗を失いました。私は幼い頃からの夢を実現するために、理容美容専門学校へ入学しました。今年3月には、父の理容店が再開できました。開店を待ち望んでくれていたお客様たちのためにも父の手伝いをしたいと思います。父の店で少しでも役に立つことができるように、そして家族に安心してもらえるように、一生懸命学んでいきたいと思います。

土地のかさ上げなどが進む宮城県気仙沼市沿岸部（2014年5月撮影）

※学年は2015年3月時点のものです。

奨学生の2014年度の振り返り-2

【この1年間で私が成長した点】

「高齢者の心の復興のために」―専修学校1年/岩手県出身・在住

作業療法士として高齢者の心の復興のために役立ちたいと決意しました。理想とする作業療法士は、「一人ひとりのニーズに応えられる作業療法士」です。そのため、基本的な知識はもちろん、視野を広げ、多くの利用者さんの趣味や思考に合わせることが出来るようになりたいです。夢に向かって突き進むことが出来たのも「夢を応援基金」をはじめ、両親、友人、多くの方々に応援していただいたと感謝しています。

「家族の存在は心から消えるものではない」―大学2年/福島県出身・在住

昨年の4月から地元を離れ、大学の近くで一人暮らしを始めました。一人で生活するのにこんなにお金がかかるのだということを体感しました。お金を稼ぐ大変さ、奨学金のありがたさがよくわかりました。一人暮らしをする前は家族と喧嘩をしていましたが、どんなに離れていても家族の存在はずっと私の中にあり続ける大切な存在だと感じ、家族をもっと大切にしなければという気持ちが強くなりました。

【この1年間で最も印象に残っている出来事】

「世界新記録で優勝！」―大学4年/宮城県出身・在住

所属する陸上競技部のキャプテンとして、東北地区大会で入賞、自身が持つ日本記録を塗り替えることが出来ました。また、2014年10月に行われたインチョンアジア・パラリンピック競技大会に陸上競技の砲丸投げ、円盤投げ、やり投げに日本代表として出場しました。砲丸投げにおいて世界新記録で優勝しました。円盤投げでも大会新記録で優勝し、2枚の金メダルを持ち帰ることができました。残りの大学生活も文武両道で、素晴らしい社会人になるために精進したいと思います。

「父に見せたかった全国大会出場」―大学1年/宮城県出身

私が高校生活で一番頑張ったことは陸上競技です。父の勧めで始め、休みの日は大会や練習を見に来てくれるなど、二人三脚で全国大会出場を目指していました。しかし東日本大震災で父が亡くなりました。とても悲しかったですが、その後も練習に励み、4×100mリレーと4×400mリレーでインターハイの切符をつかむことができました。父との目標を達成できたという思いで、本当に嬉しかったです。インターハイの舞台で走ったときの景色は、今でも忘れられません。

「伝統芸能「鹿子躍（ししおどり）」を世界に発信！」―大学1年/宮城県出身

昨夏の伝統芸能の公演「行山流水戸辺鹿子躍（ぎょうざんりゅうみとべししおどり）」に携わりました。3.11の津波被害によって一度は活動の継続が困難になりましたが、全国からの温かいご支援を賜り、復活することができました。これを機に、今後も鹿子躍の継承に携わりたいと考えています。南三陸町の復興に携わりながら、鹿子躍を世界に向けて発信する活動を行うのが将来の夢です。

【この1年間で私が学んだこと】

「日々の積み重ねを大切に」―大学1年/岩手県出身・在住

私はサッカー部に入り、全国大会に出場することを目標に頑張ってきました。目標は達成することができませんでしたが、この目標に向けての取り組みは、私を大きく成長させたと思います。4月からは大学に進学し、防災や都市基盤の事について学びます。夢は、防災分野で国際協力を行う職業に就き、災害で困っている世界中の人たちのために働くことです。高校時代に学んだ「目標に向かって頑張る」ということを忘れず、日々の積み重ねを大切にし、頑張りたいと思います。

宮城県気仙沼市舞根地区の砂浜（2014年8月撮影）

「視点を変えて震災を見ることができた」―大学2年/男性/宮城県出身・在住

大学の講義の一環で実際に被災地を訪れました。私たちのグループは陸前高田市の復興・復旧が議題でした。それまでは自分が被災者ということで感情的な考えばかりだったので、視点を変えて震災をみることができました。被災した人々と話して思ったことは、失ったものは多く、人生の絶望を味わったけれども、皆笑顔を忘れず前向きに生きていて、希望を捨ててはいないということです。東北はまだまだ復興の途中ですが、皆で支えあって懸命に生きていこうと思いました。

※学年は2015年3月時点のものです。

基金運営活動収支報告

「夢を応援基金」活動収支計算書（2014年4月～2015年3月）

（単位：円）

昨年度からの繰越金			**312,797,363**
寄付金等収入			**289,578,926**
ローソン拠出金		100,000,000	
店頭募金		173,936,247	
ローソン	173,816,371		
ローソンＨＭＶエンタテイメント	119,876		
ローソン寄付つき商品等　＊		469,649	
Ponataポイント募金		1,257,778	
Loppi募金		20,500	
ローソングループ社内募金		13,894,752	
その他収入			**70,375**
受取利息		70,375	
収入合計			**289,649,301**
奨学金支出			**239,400,000**
奨学金（669名）		239,400,000	
基金運営支出			**11,320,295**
基金運営管理費用		10,194,400	
交流会開催費用		1,116,283	
奨学金等振込手数料		9,612	
支出合計			**250,720,295**
次期繰越金			**351,726,369**

＊ローソン寄付つき商品等　：　ローソンオリジナル商品の売上金の一部等を寄付しています。

～寄付つき商品について～

ローソンはお取引先さまと連携し、売上金の一部等を「夢を応援基金」に寄付する、寄付つき商品を随時販売しています。

①

②

③

①　「年賀状印刷サービス」

＊2014年10月～12月 店頭およびＷＥＢサイトで受付

被災地の学生さんを支援するローソンの取り組みにご賛同いただいたアーティスト・芸能人の方にデザインしていただきました。

②　「柏農のハヤシパン」

＊2014年10月 青森県内限定販売

青森県立柏木農業高等学校（青森県平川市）の生徒さんと、青森県産の食材を使用し共同開発しました。

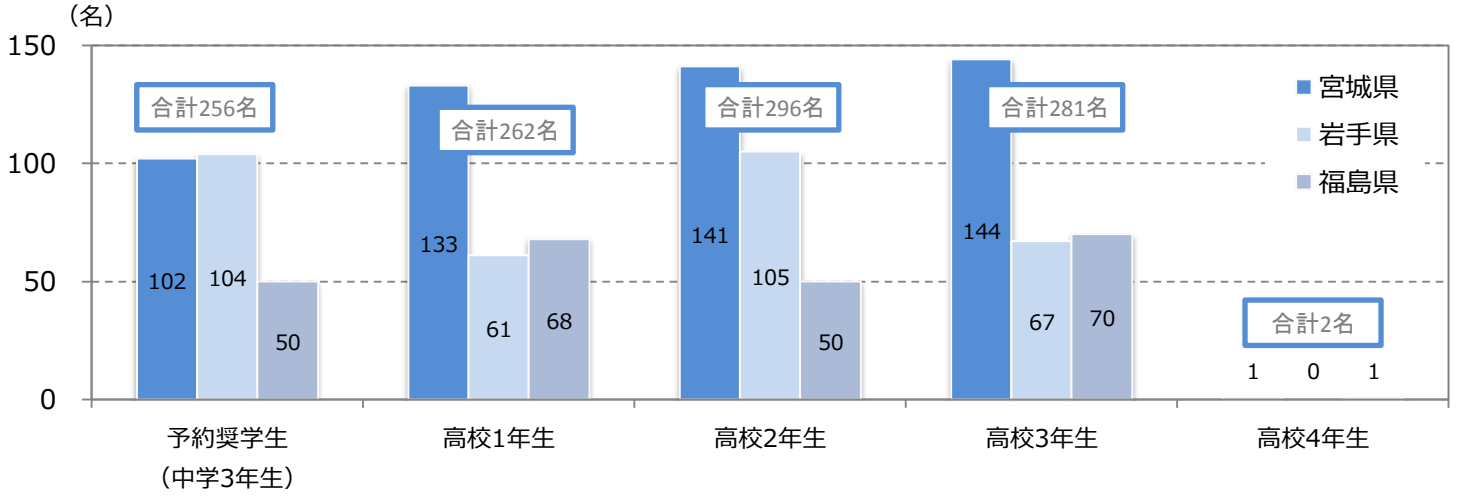
③「西高発！刻み揚げと生姜の酢飯弁当」

＊2015年2月 宮城県内限定販売

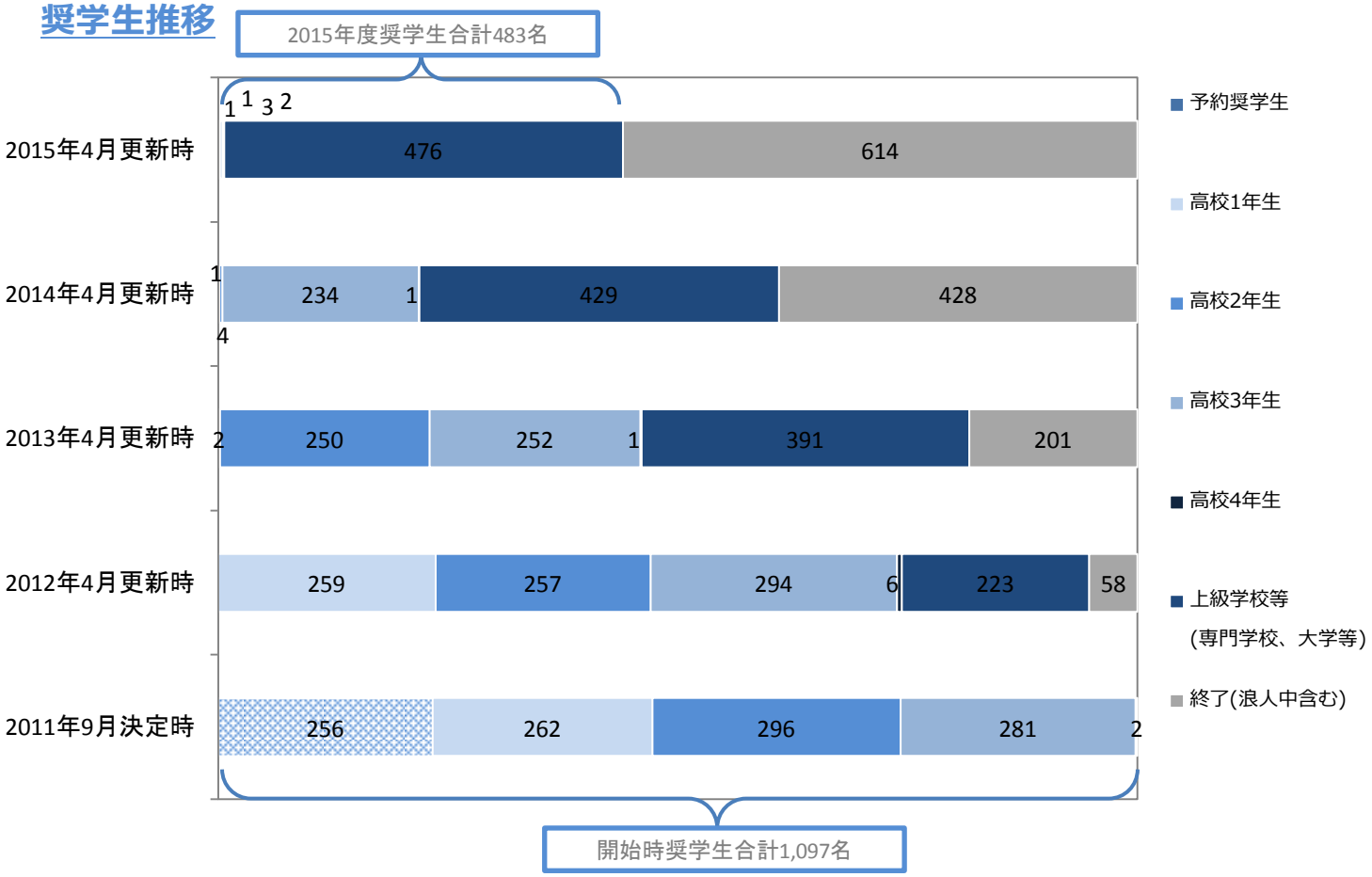
宮城県気仙沼西高等学校の生徒さんたちが考案し、宮城県主催の「高校生地産池消お弁当コンテスト」で宮城県知事賞(最優秀賞)を受賞したレシピを商品化しました。

奨学生等の状況

奨学生決定数内訳（合計1,097名。2011年9月末現在）

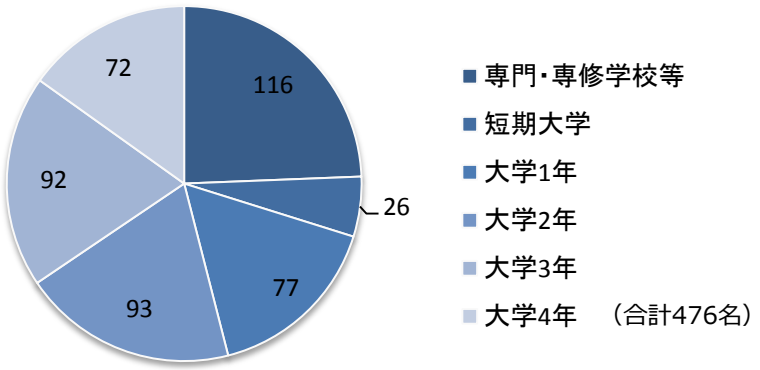


奨学生推移



*各生徒数は、2012年4月の更新手続きにおいて、募集時の情報の訂正等があり、以前に公表されたものと数値が異なる場合があります。

上級学校等奨学生数内訳



元気になろう日本

夢を応援基金

LAWSON

発行日：2015年6月30日